

乳幼児期におけるリトミック活動について

研究員

高牧恵里／松井いずみ／荒金幸子



しあわせ研究所の研究として幼児期のリトミック活動に焦点を当てて、取り組んできました。エミール・ジャック＝ダルクローズ (Émile Jaques＝Dalcroze, 1865-1950, 以降 J＝ダルクローズと表記する) が考案したリトミックは、子どもが身体を使って音楽の諸要素を学び、幼児の諸内外的な表現能力を高める教育法です。

2018年度、2019年度は、フランスの哲学者ロジェ・カイヨワ (Roger Caillois, 1913-1978) が提唱した「遊び」の視点から、子どもの歌を使ったリトミック活動の中に4つの性質であるアゴン (競争)・アレア (運)・ミミクリ (模倣)・イリンクス (眩暈) が見られるかを検証しました。

リトミック指導書を参考に分析したところ、全体的にミミクリ (模倣) の要素が多く、音楽をよく聴いて身体を反応させるといったアレア (運) の要素は、リトミック活動の特徴的な部分であり、「聴くこと」に集中させることができると考えられます。イリンクス (眩暈) は、安全面に配慮しながら

取り入れることができ、アゴン (競争) は、声掛けにより随時取り入れられることがわかり、遊びのすべての要素が含まれることがわかりました。それ以降、2020年に4歳児、2021年度に3歳児、2022年度に5歳児、2023年度に2歳児対象のリトミック活動を実施してきました。4歳児の活動では、音楽 (音) を聴き、多様な動きを身に付けるだけでなく、動きの可能性を広げ、心と体の発達にも寄与し、何事にも積極的に取り組む姿が見られ、3歳児の活動では、子ども達の創造力に音楽を添えることで日常の動きに変化を加えた体の使い方方を自然に引き出す姿を確認できました。5歳児では、活動のルールを守り、相手を思いやる社会性に繋がる部分と自己表現が可能な部分を持ち合わせられるようになっており、心身共に健康的に生きる基盤を培うことができることを確認しています。今回の2歳児の活動では、模倣から表出する動きを経て表現に変わる行動変容が見られ、発達過程と表現方法の経験を豊かにすることや五感を働かせる遊びが、表現の芽生えに繋がることを確認できました。今後もリトミックが子どもたちの幸せな成長へと導く大きな役割があることを検証していきたいと考えています。